

# ダンボでコンポ

## 段ボールで堆肥作り

### 学校の関連学習単元

小 2 / 生活 おいしくそだてわたしの野さい

### プログラム概要

#### 対象

|   |    |    |    |    |    |    |    |    |
|---|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 幼 | 小1 | 小2 | 小3 | 小4 | 小5 | 小6 | 中学 | 大人 |
| ◎ | ◎  | ◎  | ○  | ○  | ○  | ○  |    |    |

| 分野  | 時期 | 時間           | 人数            | 場所 | 講師 | 費用                                 |
|-----|----|--------------|---------------|----|----|------------------------------------|
| 廃棄物 | 通年 | 45分<br>(1時限) | 35人<br>(1クラス) | 教室 | 1人 | 原則無料<br>(基材・2セット目以降<br>1,000円/セット) |



廃棄物

## ねらい

- ・調理の時に出る野菜くず・残飯などから堆肥ができることを知る。
- ・植物の生長には水・日光・養分(堆肥)が必要であることを知る。

## 実施内容

- ・コンポストに関する説明を聞く。
- ・段ボール式コンポストを作成する。
- ・段ボール式コンポストの使い方の説明を聞き、実際に使う。

## 事前準備

◇受講者が準備するもの ◆講師が準備するもの

- ◇虫除け帽子(段ボール式コンポストに虫が入るのを防ぐ布)を作成しておく。
- ◆虫除け帽子作成マニュアルを送付する。

## 使用する材料・道具

◇受講者が準備するもの ◆講師が準備するもの

- ◇段ボール箱(りんご箱程度)
- ◇かく拌するもの(しゃもじ等)
- ◇虫除け帽子
- ◇布テープ
- ◇底板用段ボール
- ◇布 90×100cm以上。古布団カパーなど大きめの布の方が混ぜやすい。  
布は化学繊維のほうが好ましい(丈夫なため)。
- ◆「基材」  
(腐葉土 8ℓ、ピートモス 8ℓ、もみ殻クン炭 4ℓ、米ぬか 4ℓ)  
※基材が2セット以上必要な場合は、1セット当たり1,000円を負担していただきます。

## 講座活用のワンポイントアドバイス

- ・生ごみの処理能力はコンポスト1つで1日約500g程度です。生ごみの量によって作成するコンポストの数を決めてください。
- ・コンポストに虫が発生する場合があります。その場合は、米ぬかや廃食油を加えるなどの対処が必要です。
- ・作った堆肥は、園庭や校庭等で野菜や花作りに活用してください。
- ・調理実習等と併せて食育の一環として取り入れることができます。  
(食育に関する相談：浜松市健康増進課 TEL 053-453-6125)
- ・コンポストに関する問い合わせ：浜松市ごみ減量推進課 TEL 053-453-6192

### 実施機関

浜松市環境政策課(浜松市環境学習指導者)  
浜松市ごみ減量推進課

下記連絡先へ実施日の2ヶ月前までに申し込んでください。浜松市環境学習指導者または、資源廃棄物政策課職員を講師として派遣します。また、事前打合せが必要なため、講座実施の2週間前までに講師へご連絡ください。

問合せ・申込先：浜松市環境政策課 TEL:053-453-6149 FAX:053-450-7013  
E-mail:kankyou@city.hamamatsu.shizuoka.jp



## プログラムの展開例

| 時間         | 内容  | 指導のポイント   |
|------------|---|---|
| 導入<br>5分   | <p>○植物の成長のしくみを説明する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間は食事から栄養をとるが、植物はどうだろうか？</li> </ul> <p>○野菜くず・残飯の循環</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間が食事をすると「野菜くずや残飯」が出る。</li> <li>⇒本来、植物が育つための栄養だったもの。</li> <li>⇒「野菜くず等」を使って野菜が育つための栄養（堆肥）ができる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・植物には栄養（堆肥）が必要だということを感じさせる。</li> <li>・自分たちの生活とコンポストを作ることを結びつける。</li> <li>・「野菜くず等」から堆肥をつくることで『循環』を伝える（図を用いて分かりやすく説明する）。</li> </ul>  |
| 作業<br>30分  | <p>○段ボール式コンポストの作り方を説明しながら組み立てる</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 段ボール箱の底を布テープ又はホチキスでしっかりと止め、底にもう1枚段ボールを重ねて二重にする（長持ちさせるため）。</li> <li>② 布を敷き、基材を入れ、よくかき混ぜる。</li> <li>③ 布ごと、段ボール箱に入れる。</li> <li>④ 通気性を良くするため、段ボール箱はビールケースなどの上に乗せ、雨の当たらないところに置く。</li> <li>⑤ 虫除け布を4の上にかぶせてできあがり。</li> </ol>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師がコンポストを組み立てながらポイントを説明する。</li> <li>・基材…腐葉土、ピートモス、もみ殻クン炭、米ぬか</li> <li>・布は大きいほうがかき混ぜる作業が楽になることを伝える。</li> <li>・②の作業は参加者が行う。</li> <li>・設置場所によっては、雨対策も必要なことを伝える。</li> </ul>   |
| まとめ<br>10分 | <p>○コンポストの使い方（毎日の作業）を説明する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみ1日あたりおよそ500g程度を目安に入れて、よく混ぜる。</li> <li>・段ボール箱に虫除け布をかぶせる。</li> <li>・3～4ヶ月を目安に毎日繰り返す。</li> </ul>  <p>○温度を測ってみる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンポストがうまく作用していると熱を持つ。</li> </ul> <p>○堆肥としての利用法を説明する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3～4ヶ月程度利用して分解されなくなったら（温かなくなったら）、箱のまま1ヶ月程度成熟させる。</li> <li>・成熟した堆肥を使用する時は、植物の根に直接触れないように畝と畝の間に入れて土で覆う。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみは小さく切った方が、早く分解される。</li> <li>・生ごみの量が多すぎると、水分過多になり、アンモニア臭がすることがある。その場合は、米ぬかや廃食油を加えて対処する。虫が多量に発生した場合は、殺虫剤などを使う。</li> <li>・生ごみを入れないときもかき混ぜる（生ごみを分解する微生物に酸素を送るため）。</li> <li>※ごみを入れて温度が上がることを温度計を使って確かめてもらうとよい。</li> <li>・生ごみからできた堆肥のサンプルを見せて紹介する。</li> <li>・堆肥として成熟させる方法は、段ボール箱でそのままか、土に返す方法がある。どちらも1ヶ月程度寝かせる。</li> </ul> |

### < 発展 > 堆肥を使おう（前回作っておいた堆肥がある場合）

- ・菜園や花壇などでの堆肥の使い方を説明し、注意点を伝える。

